

五雲会

平成三十年十二月十五日(土) 正午(始)

演目の解説

次回予告

和布刈

天女川瀬 隆士
ツレ藪 克徳
シテ小倉伸二郎

ワキ 大日方 寛

間 若松 隆

大鼓 原岡 充一之
小鼓 住駒 彦彦
太鼓 大川 典良
笛 栗林 祐輔

後見

今井 泰行
東川 光夫
佐野 玄宜

地謡

上野 能寛
金森 隆晋
金森 良充
佐野 弘宜
高橋 憲
高山 高
山内 淳
當山 崇生
山 則俊

左近三郎

山本 則秀

山本 則俊

〱休憩十五分〱

巻絹

ツレ金野 泰大
シテ小林 晋也

ワキ 村瀬 提

間 山本 則孝

大鼓 大倉 栄太郎
小鼓 住駒 匡彦
太鼓 藤田 雄一
笛 藤田 貴寛

後見

金井 雄資
水上 優

地謡

藤井 秋雅
田崎 甫雅
辰巳 大
野 玄宜
野 大
佐野 玄宜
野 井月
藤井 雅
佐野 雅
亀井 雄二

〱休憩十五分〱

舍利

ツレ辰巳 和磨
シテ澤田 宏司

ワキ 則久 英志

間 山本 則重

大鼓 柿原 孝則
小鼓 飯富 孔明
太鼓 梶谷 英樹
笛 熊本 俊太郎

後見

宝生 和英
大友 順
佐野 弘宜

地謡

木谷 哲也
金井 賢郎
今井 德基
戴 克徳
小倉 健太郎
朝倉 俊樹
辰巳 満次郎
東川 尚史

終演予定 午後四時十分頃

能「和布刈」(めかり)

下関の早鞆明神では、十二月晦日に行われる和布刈の神事という祭を非常に大切にしています。寅の刻になると龍神が潮を制し、神主が潮の引いた海底の和芽を刈るのです。今日はその神事の日、神主の前に老翁と若い女性が現れ、海神と神の皇子との婚姻のこと、それによって海と陸が隔てられた謂れを語り、女は天女と現れ舞を舞い、老翁は龍神となつて神主を助け、神事は滞りなくめでたく終わるのでした。

狂言「左近三郎」(さこのさむろう)

獵師の左近三郎が狩りに出る途中で禅僧に出会います。三郎は禅僧をからかってやろうと無理難題を言いかけるうちに殺生の是非を論じる問答になります。達磨大師の文に、殺生も罪にならないとあると三郎が主張するのに、僧が鹿を射たら鹿になつてしまふだろうと戒めると、それなら坊主を射て出家になろうと弓に矢をつがえ、さらに僧をなぶりまします。丁々発止の問答の決着は...

能「巻絹」(まきぎぬ)

勅命により千匹の巻絹が熊野に集められることになりましたが、都よりの使いが到着しません。実は使いの男は途中で「音無天神」に立ち寄り、梅の花を見て天神に一首の和歌を捧げていたのです。期限が設けてあるのに何故遅くなつたと、臣下は問答無用と男を縛つてしまふと、音無天神が乗り移つた巫女が現れ、縛めを解くように言います。巫女は男が心中で詠んだ歌の下の句を詠つて疑いを晴らし、和歌の徳を讃えて舞を舞います。

能「舍利」(しゃり)

都東山の泉涌寺に納められている仏舍利を拝む為僧がやつて来ます。寺内に案内させ、僧が仏舍利を拜んで感涙を流していると、寺近くに住むという男が現れ一緒に拝みます。二人で仏法東漸の事や、霊鷲山の事などを話さうと、俄かに空はかき曇り、稲妻が光ると、男の面色が変わり、そもそもこの仏舍利は昔足疾鬼が奪つたものだと言つて舍利殿に飛び上がり、仏舍利を掴むと天井を蹴破つて消え失せまします。寺の守護神韋駄天は足疾鬼を追つて現れ、天上界から下界まで追いつめ遂に仏舍利を取り返します。

小鍛冶田崎甫	羽衣亀井雄二	田村水上優	平成三十一年一月十九日(土) 正午(始)
--------	--------	-------	----------------------



◎入場料 一般 / 5,000円
学生 / 2,500円

◎会場 宝生能楽堂

JR水道橋駅東口 徒歩3分
都営地下鉄三田線 水道橋駅
A1出口 徒歩1分

☎113-0033
東京都文京区本郷1-5-9